

20230920 “We are the world” 1985 年アフリカの飢餓救援にアーティストたちが立ち上がった！

アーティストたちが立ち上がった！

エチオピア大飢饉をご存じでしょうか。1984 年から 1985 年にかけてアフリカのエチオピアを大干ばつが襲いました。餓死した人は 100 万人といわれます。この時期に限ったことではなかったのですが、アフリカでは飢餓が頻発していて、この飢餓問題救済に当時の POP s 界のスーパースターたちが、立ち上がってチャリティーソングをつくりました。それが、“We are the world” です。作詞・作曲はマイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが共作で行い、プロデュースはクインシー・ジョーンズが担当しました。1985 年リリース当時、アメリカ国内だけでシングル 400 万枚、アルバム 300 万枚を売り上げました。最終的には、アメリカだけで 6300 万ドルの収入となり、全ての印税はチャリティーとして寄付されました。

参加したアーティストの顔触れは、錚々たるもので、マイケル・ジャクソン、ライオネル・リッチー、スティービー・ワンダー、ポール・サイモン、ビリー・ジョエル、ダイアナ・ロス、シンディ・ローパー、ボブ・デュラン、ティナ・ターナーなど総勢 45 人、これだけのメンバーがスケジュールを合わせるのは至難の業で、参加者の多くがアメリカン・ミュージック・アワード（アメリカの三大音楽賞の一つ）の受賞対象者であることから、この賞の授賞式後ならば集まると判断し、1985 年 1 月 28 日の夜、アメリカン・ミュージック・アワード直後、ハリウッドの A&M スタジオに集結してレコーディングが行われました。

“We are the world” は、収録の様子からドキュメントタッチでまとめた DVD（当時はレーザーディスク）がありますので、興味のある方は是非ご覧いただきたいです。この曲ができたときの思いがアーティスト一人一人から感じることができます。

さて、美しいメロディの中に何度も何度も繰り返されている言葉があります。

We are the world , We are the children

(僕らは仲間、僕らは皆 神の子供たち)

We are the ones who make a brighter day

(明るい明日を作っていくのは僕ら自身)

So let's start giving (さあ 今こそ始めよう)

There's a choice we're making

(やるか やらないか 選ぶのは君次第だ)

We're saving our own lives

(それは僕たちの命を救うことにもなるんだ)

It's true we'll make a better day Just you and me

(本当さ、住みよい世界を作るのさ 君と僕で)

スーパースターだからできたんだ、やっぱり庶民の力なんて限界があるよ、と考える人もいるかもしれませんが。しかし、それは正反対なのです。そうではないということはこの話は教えてくれています。なぜならば、この歌にお金を出したのは、庶民一人一人だからです。1枚数ドルという売り上げの蓄積だからです。多くの人を心を揺り動かしたのは、たった一人の思いからだったかも知れません。ですが、その思いが多くの人に広がって、それがとてつもない力になる、それによって救われる命がある、その思いをさらに広げることで、もっともっと救える命があることを、このエピソードは教えてくれます。

思いを広げることの大切さ、そして、歌の力を改めて感じます。